

市議会各委員会も本格始動



市議会中山間地対策特別委員会（橋爪法一委員長）は16日、市が進めている「中山間地域における活性化方策調査研究」の中間報告について説明を受け、質疑を行いました。

市は委員会の中で、上越市の中山間地域の公益的機能の貨幣評価額（森林と農地で年間約1911億円）、中山間地域における現況や課題の把握と市の施策の検証の進め方について説明するとともに、今後の中山間

地域対策の指針となる「上越市の中山間地域における集落対策の方向性」について来月中には正式にまとめる意向であることを明らかにしました。

説明を受けた各委員からは、「上越市の中山間地域の公益的機能の貨幣評価額を明らかにしたのは初めてのことだ。とてもいいことなので、市民にわかりやすく公表してほしい」「人が関わっているなかで公益的機能が維持される。そうした視点で対策を」「行政の役割は（集

落を担う）人をいかに確保し、育てるかに尽きる。中心的な課題に入れてほしい」「集落の自発的な取り組みを重視しているのはいいことだ。地域通貨をどんなふうと考えているのか」などの質問や意見が出されました。

説明を受けた事項については、資料配布が遅かったこともあり、特別委員会では来月8日に「上越市の中山間地域における集落対策の方向性」骨子案について、再度質疑を行うことにしています。



市議会災害対策特別委員会（瀬下半治委員長）が18日開催され、津波対策と原子力対策を除く「上越市地域防災計画の見直しについての素案」が示されました。

委員会では基本方針や基本的視点、主な修正ポイントや今後のスケジュール等について説明を受けた後、質疑が行われました。

共助の視点はもちろん大事なことだが、行政の果たす責務役割は極めて大きい。インフラ整備も含め減災を基本にした街づくりをどう進めていくのが重要だ。この点があまりはっきり見えてこない」とただししました。市側は、「防災と都市計画とのコラボによるまちづくりは大切なこと。防災計画に反映させていく」と答えました。

害が大規模化、広域化する中で災害対応にかかわる設備や機器は、科学の最先端化・高度化が必要となってきた。たとえば、工作車1台が1億円もする。人命・財産・地域を災害から守り対応するためには、最新の諸設備や機器を計画的に整備することが大事」「小池消防長はあらかじめ準備された訓練ではなく『発災型の訓練』も必要と言っていた。訓練方法も研究してはどうか」などと発言しました。



党市議団、消防本部を訪問

日本共産党市議団は16日、上越地域消防事務組合本部を訪問、小池義徳消防長など幹部の皆さんと懇談するとともに、指令室、仮眠室などの部屋、各種消防車両などを見させていただきました。

懇談では、小池消防長から、近年の災害は大規模化・広域化していること、またその対応も広域的連携によって対応していることなどを報告いただきました。また、3・11災害の経験をこれからの防災計画と対応にどう生かすかについても意見交換させていただきました。

指令室では、救急車の出動要請から出動に至る実際の動きを見ることができました。また、近代的装備の消防ポンプ車、救助工作車、救急車なども見せていただき、災害のたびに資機材も進化していくことを知りました。

市議会の会派として消防本部を訪れたのは、日本共産党議員団が初。第一線で行動している皆さんからじかに学ぶことができ、大変有意義でした。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 348 2013年1月27日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)